

**令和 8 年度 アジャイルコミュニティ主催
『モデラーが語るアジャイルのリアル～はじめの一步を踏み出すために～』
及び意見交換会」開催**

令和 8 年 5 月 25 日、アジャイルコミュニティ(幹事:安藤 寿之/NEC ソリューションイノベータ(株)、福田 朋紀/リコーIT ソリューションズ(株))主催による「JISA アジャイルセミナー『モデラーが語るアジャイルのリアル～はじめの一步を踏み出すために～』及び意見交換会」を Web 会議(Zoom)にて開催した。参加者 28 名。

はじめに本年 1～2 月にかけて実施した「令和 7 年度情報サービス産業におけるアジャイル開発に関する調査」の結果を報告した。特筆すべき点として、

- ・ アジャイルプロセスが案件の性質により適切に選択されている。又 DevOps の普及に伴って「運用」プロセスでの展開が進んでいる。
 - ・ アジャイル導入は開発チームの自主的判断で選択され、アジャイルプロセスの本来の価値である「仕様変更への柔軟性」や「無駄の削減」が正しく評価されている。
 - ・ 生成 AI との関連では、生成 AI の活用により「実装速度の向上」が図られ、AI によるレビューは「品質の向上」に寄与している。
- 等が挙げられた。

続いて、特定非営利法人 UML モデリング推進協議会(略称 UMTP)から 3 人の講師を招き、それぞれモデリング視点、メーカー視点、ユーザー視点で講演を行った。

(1).「モデリングもしないでアジャイルとは何事だ(2026 解釈版)」

原田 巖 氏

モデリングはアジャイル開発における「分からないまま進める不安」をチーム全員で扱い、共通認識を作るための最良なツールとなる。AI 時代だからこそ、人間には大局観やビジョンが求められる。

(2). 「従来型日本メーカーにおけるアジャイル開発導入の課題と克服」

小黒 登行氏

アジャイル導入の障壁として、i)3～4 か月スプリントの開発、ii)暗黙知を要求としてまとめない、iii)鶴の一声、iv)開発者の免罪符としてのアジャイル、が考えられる。アジャイルにおいても正しくエンジニアリングを行い、手戻りを少なくする

ことがアジャイルの本懐ではないか。

(3). 「ユーザー企業がアジャイルを導入する時に考えていること」

古川 剛啓氏

ユーザー企業は、i)定期的に発生する莫大な開発費用、ii)ベンダロックオン、iii)ソフトウェアエンジニア不足を3大懸念として抱えている。これらに共通するのは、システム開発費用を抑えたいということだ。アジャイルプロセスを導入すれば開発費用が平準化され、社内エンジニアが育成されるのではないか。ベンダはアジャイル開発に対応する責務があると考ええる。

講演後は、講師を交え3つのグループに分かれて、4つの講演を踏まえた意見交換を行った。各グループでは、アジャイルプロセスに対する課題や日頃の取組等について、活発な議論が展開された。

本コミュニティは令和8年度も継続して開催する。アジャイルプロセスに関心のある向きは、本コミュニティへの参加を前向きに検討願いたい。

(鈴木、溝尾)